

若年女性のPMS/PMDDと月経痛への 当帰芍薬散合桂枝茯苓丸の有用性

あさつゆクリニック (東京都) 岡 朱美

当院では月経周辺症状に悩む10～20代の若年女性において、生活習慣が影響していることを示唆する症例を多く経験している。そこで、漢方治療と生活指導、養生法を取り入れた診療を行っている。漢方処方については、当帰芍薬散の処方例の約20%に桂枝茯苓丸を併用している。本稿では、当帰芍薬散と桂枝茯苓丸の併用が奏効した3症例を提示し、各症例を漢方医学的に考察し、さらに食生活による冷えとの関連についても考察した。

Keywords 桂枝茯苓丸、当帰芍薬散、PMS/PMDD、月経痛、若年女性

はじめに

近年、PMS/PMDDまたは月経痛の影響が、本人、家族関係、学校、職場など社会的に広く及んでいる。特に若年女性で、月経関連の症状が強く、月経そのものに対する恐怖感、拒否感があるように感じられる。当院では、10～20代の月経周辺症状に悩む方を多く診察しているが、症状が強い要因として、ストレスや食生活の乱れをはじめとする生活習慣が影響していることが考えられる。そこで当院では、漢方治療に生活指導、養生法を取り入れ、冷飲食や甘いものをなるべく控えるなど食習慣の改善を促している。処方に関しては、当帰芍薬散処方例の約20%に桂枝茯苓丸を併用しており、血虚から瘀血に至っていることが示唆される。今回、当帰芍薬散と桂枝茯苓丸を併用することにより月経周辺症状が改善した症例を提示するとともに、若年女性の瘀血とその背景について検討したい。

症例1 24歳 女性 吐き気、月経前から月経中の情緒不安定、月経痛

月経前に泣いたり、死にたくなったり、2ヵ月前より手首を切ってしまう。月経前の吐き気がすごくひどい、ご飯が喉を通らないくらいひどいとのことでX年12月受診。精神科に通院中、統合失調症と診断されている。月経前の吐き気に対し、六君子湯、香蘇散で改善していた。X+1年5月、月経痛が強く倒れたとのことで、以前から他院にて処方されていたクラシエ当帰芍薬散料エキス細粒 6g/日(分2)に加え、クラシエ桂枝茯苓丸料エキス細粒 6g/日(分2)を1ヵ月処方したところ、症状は速やかに改善した。

症例2 22歳 女性 月経前の気分の落ち込み、月経痛

現在、美大に通っている。寝不足で、製作が立て込んでいると徹夜することもあり。月経で学校にいけないこともある。ひどいと起き上がれない、力が入らない、漬物石が下半身に載せられている感じがある。中学の時から月経痛があるが、だんだん重くなっている。月経前は気分が落ち込み、腰がだるく、月経が終わった後はすっきりしている。舌診：紅、脈診：弱。初診時より、クラシエ当帰芍薬散料エキス細粒 6g/日(分2)、クラシエ桂枝茯苓丸料エキス細粒 6g/日(分2)を1ヵ月間併用したところ、1ヵ月後、月経痛が改善、その後は月経中より内服を指示したところ、本人の判断で月経少し前より内服され、症状が以前より良くなっているとのことであった。

症例3 17歳 女性 月経前の腹痛、月経痛、月経量が多い

月経痛が1～3日目に酷く、他院にてLEP製剤を処方され、内服したところ体の関節が痛くなり1ヵ月で止めた。月経量が多く、漏れないようにおむつをしている。母親が仕事で来られず父親と来院。舌：胖大、脈：弱、腹部：振水音。初診時より、クラシエ当帰芍薬散料エキス細粒 6g/日(分2)、クラシエ桂枝茯苓丸料エキス細粒 6g/日(分2)を2週間処方したところ、翌月には月経量もそれほど多くなく、月経痛もそんなに強くなかったとのことであった。月経前の下腹部痛が出現したところから内服を指示。その後しばらく来院されず、1年後再診。月経開始初日に内服、

また、症状が強い日のみ内服するとすぐに良くなる。月経前の症状はなく、月経痛は1日のみ痛いこともあるが、以前よりとても良くなったと喜んでいて、友人にも月経痛が強い子がいるので漢方を伝えたいとのことだった。

考 察

症例1について、漢方問診票より、吐き気、乗り物酔い、食後眠くなる、皮膚がカサカサする、皮膚の痒み、ニキビ、疲れやすい、汗をかきやすい、のぼせ、暑がり、寒がりとあり、水滯・脾気虚・血虚・寒熱錯雑を伴う瘀血証の病態が考えられる。当帰芍薬散は水滯、血虚に対し有効だが、それらの症状が改善した後に瘀血の症状が現れてきている。そこで、桂枝茯苓丸を当帰芍薬散と併用したところ症状が改善した。瘀血の症状が、時間の経過と共に表面化してくることが示唆される症例であった。

症例2について、月経痛が長期にわたって持続し、強くなっていることに加え、月経前の精神症状も出現しており、気滯血瘀¹⁾が考えられる。また、「腰が重だるい」、「漬物石が下半身に載せられる感じ」と体の感じ方に重さを示唆した表現がされているが、これらの表現は、精神症状が身体化していることを内包しており、気滯から瘀血に至っていると考えられる。身体の症状が精神症状に転化されている場合は、自分の感情に気づかない傾向にあるが²⁾、症状の表現の仕方も参考になるとと思われる。内服方法に関しては、症状がある時に内服を開始できており、自分で内服のタイミングを決めることで、自分自身の症状と向き合うことができる。漢方は長期で飲まなければいけないので大変、または粉や味が苦手など服用に際し継続困難なことがあるが、自分自身の症状に合わせて内服する方法を今後も検討していきたい。

症例3について、月経量が多く、おむつをしなければいけないほどであり、瘀血が示唆される。10代で、まだ月経周期が安定せず、量も不安定でしばしば過多月経も見受けられる。過多月経は瘀血によって形成されたしこり、血塊が出る月経痛を伴うことも多い。若年者の瘀血には、食生活などの乱れや寝不足などによる気血虚弱¹⁾が隠れていることがある。気血両虚から、気血の巡りが悪くなり不通則痛、さらに瘀痛となる。LEP製剤による副作用としての体

の痛みは湿熱の影響も考えられ、茯苓にて体内の病的な水分を除き、牡丹皮にて熱を冷ます効果を期待し桂枝茯苓丸を当帰芍薬散と併用した。月経困難症にはOC/LEPが頻用されるが、副作用等で内服継続ができない場合は漢方への変法も考慮される。その時には副作用の症状の出方によって、証から方剤を考慮することが大切かと思われる。

最後に、食生活による冷えとの関連について考察する。若年女性で月経周辺症状が強い患者は、冷えの自覚がなくても、甘いものの過剰摂取など食生活の不規則から寒湿が停滞している印象がある。冷えは、月経不順を助長し、将来的に不妊症に繋がる可能性もあるため、食生活の指導が大切かと思われる。どのような食生活をしているのかまず聴いて、それぞれの生活に応じた改善点を見出しながら経過を見ていく必要がある。また、食事の不規則から血虚となり瘀血に至る過程が考えられる場合、瘀血を改善するために補血が大切である³⁾。当帰、芍薬で補血し、症状が改善しない場合は、川芎による活血に加えて、桃仁、牡丹皮にて瘀血⁴⁾を取り除いていく。当帰芍薬散と桂枝茯苓丸を合わせた処方に加減方に、さらに活血化瘀の効能がある折衝飲⁵⁾がある。今後も若年女性の瘀血との関係について、さらに症例を重ねて検討していきたい。

【参考文献】

- 1) 菅沼 伸 監修、菅沼 栄 著: いかに弁証論治するか. 東洋学術出版社, 212-221, 1996
- 2) 益田 総子 ほか: 女性医師が語る、女性の心と漢方. 伝統医学 12: 1-9, 2009
- 3) 田中 耕一郎 ほか: 片頭痛・子宮内膜症および関節リウマチの諸症状. 中医臨床 32: 54-59, 2018
- 4) 三浦 於菟: 実践東洋医学 第2巻 生理・病態・治療理論篇. 東洋学術出版: 223-248, 2018
- 5) 幸井 俊高: 医師・薬剤師のための漢方のエッセンス. 日経BP: 346-348, 2020